

Ⅲ. イル・プレットロ誌に掲載された ファルボの評論等

◎ 「芸術とアマチュアリズム, *Arte e dilettantismo*」 1922年9月号

(筆者注：これはイル・プレットロ誌主幹 A. ヴィッツァリが行ったマンドリン及びギターの教授資格試験実施の呼びかけに応じて書かれたものである。)

親愛なるヴィッツァリ氏へ

“コッリエレ・デッラ・セーラ, *Corriere della Sera* 紙” が、貴誌イル・プレットロの主催した作曲コンクール（注1）について報道した時、当然のことながら、私の友人達は、私の勝利を大層祝福してくれました。ところが、その祝辞の中で、或る友人が——多分、それは真面目な気持ちでなされたものと思います。事実、その時の彼は、この世で見られる最も率直そうな顔つきをしていましたから——、私に次のように問いかけたのです。

“しかし、それは実際、重要なコンクールとして扱われているのかい？”と。

その質問は全くの善意でなされたものです。そして、私の最良の友の口からもたらされたものでした。しかし、それはまた、マンドリンやギターは理髪師達の楽器、大道の楽器、他の楽器を弾くことのできない人達の楽器、更には、何かの楽器を直ぐに弾けるようになることを望んでいる人達の楽器であると、常に考えている人々凡ての気持ちを、宿命的に、端的に反映した質問でもあったのです。

しかしながら、過去を振り返ってみる時——最悪の品質に属する楽器、